

団体名： 大府商工会議所

事業名	事業概要（背景・目的）	事業実績	主たる対象者	事業評価														
				目標①			目標②			得られた効果	A B C D評価				今後の展開・改善点等		備考	
				指標	目標数値	実績数値	指標	目標数値	実績数値		総合評価	事業評価	自己評価	調査結果	満足度	補足		目標①
巡回・窓口相談指導事業	地域内事業者の大多数を占め、本市商工業の基盤をなす小規模事業者及び中小企業者の経営基盤の安定強化に努める。また、課題解決提案・経営革新への積極的な支援を実施する。特に巡回指導は、4人の経営指導員が多忙な小規模事業者に訪問することで時間的短縮が図られる上、事業者が向いて聞くまでもない様な些細な相談を受けることができる。	巡回指導 実企業数 375件（うち非会員8件） 延べ件数 637件（うち非会員8件） 窓口相談指導 実企業数 777件（うち非会員35件） 延べ件数 1,868件（うち非会員64件） 課題解決提案件数 46件	小規模事業者	指標	巡回窓口指導延件数 (達成度 139.2 %)	指標	課題解決提案件数 (達成度 115.0 %)	小規模事業者に対し、補助金申請のノウハウなど支援を効果的に行う事ができた。（小規模事業者持続化補助金の申請件数37件、うち結果が出ている31件の採択件数は20件、採択64.5%）	総合評価	A	事業評価	自己評価 A 目標達成度 A	調査結果 事業者への A	満足度 A	補足	目標① 現行どおり	目標② 現行どおり	小規模事業者は様々な角度から支援が必要であることとを考慮し、重点的に支援を行う。今後も現行どおり計画目標を定めて継続実施する。
記帳継続指導	正しい経理と記帳慣行を身につけ、経理管理や納税の適正化を促す。	前期源泉指導、年末調整、決算、確定申告、消費税申告、記帳指導 指導対象企業数 92事業所 指導延回数 1,204回 指導延日数 531日	小規模事業者	指標	指導対象企業数 (達成度 102.2 %)	指標	(達成度 %)	小規模事業者の記帳意識の向上を図り、適正な税務申告指導を行うことで、経営改善がなされた。R5.10から始まったインボイス登録制度に対する制度の理解と正確な申告が出来た。	総合評価	A	事業評価	自己評価 A 目標達成度 A	調査結果 事業者への A	満足度 A	補足	目標① 現行どおり	目標② 現行どおり	窓口やHPにて記帳機械化事業をPRし、指導対象企業数の維持に努める。新規創業者の簿記知識が浅いことによる会計間違いの相談が多く見られたことから、創業支援とともに記帳指導を強化する。
講習会等	地域内事業者の大多数を占め、本市商工業の基盤をなす小規模事業者及び中小企業者の経営基盤の安定強化に努める。具体的には月1回の定例税務相談を始め年末調整、確定申告の勉強会及び個別指導、経営に関する講習会を開催する。	集団指導 6回 延べ98件 個別指導 30回 延べ153件	小規模事業者	指標	集団指導参加者数 (達成度 81.7 %)	指標	個別指導参加者数 (達成度 57.7 %)	定例の集団及び個別講習会を開催することにより、小規模事業者が税務、金融、労務について正しい知識を身につけることができた。	総合評価	B	事業評価	自己評価 A 目標達成度 C	調査結果 事業者への A	満足度 A	補足	目標① 現行どおり	目標② 現行どおり	定例の講習会は広く認知されている。定例以外でも時代のニーズにあった有益性の高い講習会を企画する。次年度も効率的な運営に努める。
若手後継者等育成事業	小規模事業者・中小企業者は大企業とは異なり、自己変革に繋がる機会が少ない。この状況を変えるため小規模事業者等の自己研鑽、人格教養、経営能力の向上に資する機会を設けて、企業の発展と地域社会の繁栄に貢献する。併せて、会員相互の連携と親睦を図る。	地域振興事業、研修会等 事業開催回数 青年部 4回 延べ参加者数 1,212名 青年部会員数 67名 女性会会員数 47名	小規模事業者等における若手経営者（後継者等）及び女性経営者等	指標	青年部会員数 (達成度 78.8 %)	指標	女性会会員数 (達成度 97.9 %)	各種事業を企画・運営することにより、会員の資質向上を図る事ができた。又、アフターコロナの中、地域を元気づける事業の実施により、大府市の活性化が図られただけでなく、青年部、女性会という団体を市民に向けてPRできた。	総合評価	A	事業評価	自己評価 A 目標達成度 C	調査結果 事業者への A	満足度 A	補足	目標① 下げる	目標② 下げる	青年部は、経営者等会員の資質向上に努める。女性会では、高齢化が進んでいる事から、引き続き若手会員の増強を図り、今後の事業運営の安定を図る。
若手後継者等育成事業 「全国会長研修会」【青年部】	令和4年度に創立20周年を迎えた当青年部。次の30周年を見据えて、より良い単会になるよう全国418の青年部と研修・交流を重ねて、持続的に成長する単会を目指す。	日程：令和5年11月17日（金）、18日（土） 場所：高知県高知市 参加者：令和5年度会長 近藤匡則、令和6年度会長予定者 早川武仁 満足度：100%	小規模事業者等における若手経営者（後継者等）	指標	参加者数 (達成度 100.0 %)	指標	満足度 (達成度 125.0 %)	会長、会長予定者同士の繋がりを強くしただけでなく、次年度の会長には、会長になる自覚を芽生えさせることができた。	総合評価	A	事業評価	自己評価 A 目標達成度 A	調査結果 事業者への A	満足度 A	補足	目標① 現行どおり	目標② 現行どおり	今後も引き続き、会長、次年度会長の2名で参加を続ける。
若手後継者等育成事業 「大府商工会議所青年部 地域活性化事業の開催」【青年部】	e-スポーツ元年と言われた2018年から5年が経過した。徐々に広がりは見せているが、遊べる場所は限られており、まだ触れられる機会は多くない。大府市でもe-スポーツを推進しており、市や市内事業者と協力して市民が楽しめる思い出に残るような事業を開催する。	日程：令和5年9月23日（土） 場所：メディアス体育館おおぶ 参加者数：218名（当日参加者や付き添い含めて推計1,000名） 内容：ぶよぶよを始めとするe-スポーツの大会及び体験 満足度：87.8%	一般市民	指標	参加者数 (達成度 36.3 %)	指標	満足度 (達成度 109.8 %)	市内初めてのe-スポーツ大会を開催し、多くの市民が来場した。市民の関心の高さを実感すると共に最先端の娯楽を提供できた。また、地域の事業者者に依頼することで地元企業のPRも行うことができた。	総合評価	B	事業評価	自己評価 B 目標達成度 C	調査結果 事業者への A	満足度 A	補足	目標① 現行どおり	目標② 現行どおり	令和6年度は地域住民を対象にした研修事業を実施する。

団体名： 大府商工会議所

事業名	事業概要（背景・目的）	事業実績	主たる対象者	事業評価											備考						
				目標①			目標②			得られた効果	A B C D評価					今後の展開・改善点等					
若手後継者等育成事業 「大府商工会議所青年部 職業体験キッズワークの開催」【青年部】	新卒の離職率は30~40%(大卒・高卒)で推移を続けており、企業の懸念事項となっている。また、求職者にとっても就活を再び行うことになり、お互いに時間と金を無駄にしてしまう。そこで地域の子ども達に仕事を体験してもらうことで将来の仕事選びの一助となるような事業を実施する。	日程：令和5年10月28日(土)、29日(日) 場所：メディアス体育館おおいぶフットサルコート 参加者数：966名(28日472名、29日(日)494名) 内容：市内事業者による子供向け職業体験会 満足度：96%	一般市民	指標	参加者数 (達成度 193.2 %)			指標	満足度 (達成度 120.0 %)			新規加入した青年部メンバーやOBのほか初めて青年部メンバー以外からの参加があり、幅広い業種の職業体験を提供することができた。	総合評価 A	事業評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度	補足	目標①	目標②	令和6年度も引き続き開催する。
				目標数値	500	実績数値	966	目標数値	80	実績数値	96						必要性	現行どおり	現行どおり		
若手後継者等育成事業 「大府商工会議所青年部 研修事業の実施」【青年部】	創立20周年が終わり、一層の進化が求められる団体となった。自らと地域を見つめ直し、より地域に根差し、地域の役に立つ団体になれるよう研修会を開催する。	日程：令和5年6月27日(火) 場所：大府商工会議所3Fホール 参加者数：26名 内容：青年部OB 2名を招いた講演会 満足度：71%	小規模事業者等における若手経営者（後継者等）	指標	参加者数 (達成度 86.7 %)			指標	満足度 (達成度 88.8 %)			講師から「青年部はボランティア団体ではなく、経済活動として地域活性化をすべき」との説明があり、メンバーにとって青年部の立場について改めて考えるよい機会となった。	総合評価 B	事業評価 B	自己評価 B	調査結果 事業者への	満足度	補足	目標①	目標②	令和6年度は地域住民を対象にした研修事業を実施する。
				目標数値	30	実績数値	26	目標数値	80	実績数値	71						必要性	上げる	現行どおり		
商店街振興事業 (げんき商店街推進事業)	小規模商店の現況はいうまでもなく厳しい状況にあり、中心市街地の衰退は著しい。このような厳しい状況を少しでも打破するためには、魅力ある商店づくり(個店対策支援)が必要であり、これにより街にも活気が生まれ、ひいては、地域活性化が図られる。	・「一店逸品運動」参加事業所 30事業所 ・「おおぶふれあいゼミナール」参加事業所数 29事業所 ・「大府あきんど塾」参加事業所 38事業所	小規模事業者	指標	参加事業所数 (達成度 121.3 %)			指標	満足度 (達成度 %)			一店逸品運動により、店主同士の交流が活発となり、新商品開発や販路開拓につながる等、商業の活性化を図ることができた。ふれあいゼミナールは顧客獲得につながる等の販売促進効果が得られた。セミナーはデジタルツールの活用を主軸に展開し、個店の資質向上につながった。	総合評価 A	事業評価 A	自己評価 A	調査結果 事業者への	満足度	補足	目標①	目標②	コロナの五類移行により、経済は回復に向かいつつあるものの、消費者の生活行動の変化により、地域商業の状況は思わしくない。魅力ある個店を自ら発信できるよう、個店の支援に繋がる事業を継続実施していく。
				目標数値	80	実績数値	97	目標数値		実績数値							必要性	上げる	実施方法①	実施方法②	
				目標数値		実績数値		目標数値		実績数値				自己評価 A		満足度 A		目標①	目標②		

※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。  
 ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目業達成度の評価は2つの平均となります。  
 ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体において整備しています。